

経営体育成支援事業を活用した事例
～農業機械の大型化により、農地の集積・作業の効率化を実践し
米粉パンの加工販売など6次化にチャレンジ～

対 象 者 名 称：農事組合法人ファーム・おだ
事 業 名（年度）：経営体育成支援事業（25年度）
事業実施主体名称：広島県東広島市
内 容：トラクター(53ps)、田植機(8条植)の導入
事 業 費：797万円（国費：227万7千円）

1 事業取組前の状況（平成24年度）

(1) 補助対象者の経営状況

- ① 経営面積 84.0ha（作付面積 78.0ha）
（作付内訳：水稲 46.2ha、小麦 8.5ha、大豆 15.2ha、アスパラガス 0.4ha、そば 3.3ha、
飼料用米 2.3ha、米粉加工用米 2.2ha）
- ② 構成員数：128 人（設立年月日：平成 17 年 11 月 12 日）
- ③ トラクター（43ps × 2 台）
田植機（6 条植 × 2 台）
コンバイン（水稲用：4 条刈 × 1 台、5 条刈 × 1 台、）
汎用コンバイン（大豆、小麦、そば用）

(2) 導入のきっかけ

過疎・高齢化に伴う農業従事者の減少並びに集落機能の低下に対応するため、平成 17 年に構成員 128 戸からなる農事組合法人「ファーム・おだ」を設立し、84ha で集落 1 農場方式による営農を行ってきた。

しかし、平成 24 年度に「人・農地プラン」で中心経営体として位置づけられ、新たに 26 戸が法人に加入したことにより、さらなる経営規模拡大が見込まれることから、本事業による機械導入で作業の効率化を図ることが不可欠であった。



○導入したトラクタ(53ps)



○導入した8条植え田植機

2 取組の概要

- (1) 以前より特定農業法人として集落の利用集積母体としての役割を担い、耕作放棄地の防止、コストの低減に取り組んでいるが、中心経営体として位置付けされたことにより、さらに農地の利用集積が進んだ。
- (2) 平成 25 年度には、4 人を雇用し 17 名となっており、地域に根差した雇用に貢献している。
- (3) 平成 24 年度から平成 25 年度にかけて、経営面積が 84ha から 103ha（作業受託面積を含む。）に増加しており、平成 25 年度の目標（99ha）を大幅に上回っている。
- (4) 平成 24 年 4 月に、米粉パンを販売する「パン&米夢（パントマイム）」を地元を開店するとともに、平成 25 年 10 月には市中心部に「パン&マイム西条店」を出店し、平成 25 年度の売上は 3 千万円となっている。
- (5) これらの取組により法人全体の売上高は、大幅に増加した。

3 経営改善の効果

売上高は向上しているが、図に示すように 6 次化による売上が全体の売上高に貢献している。

図 1 パン売上高の推移

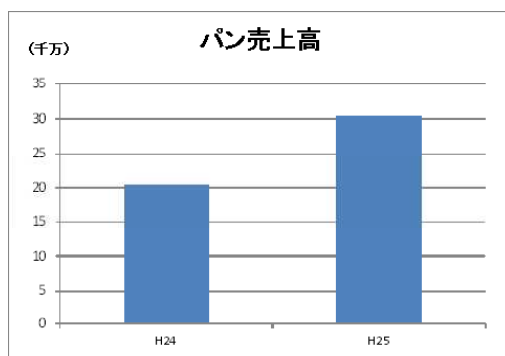
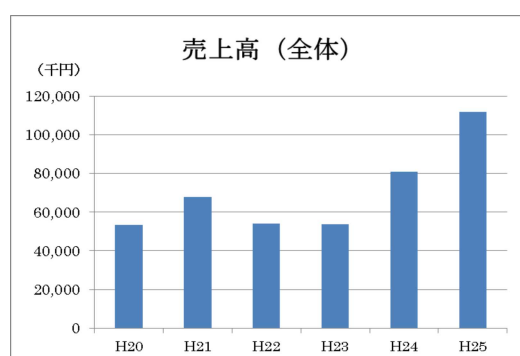


図 2 売上高（全体）の推移



4 成功の要因

- (1) 県及び市が積極的なバックアップを行ったこと。
- (2) 中心経営体に位置付けられたことにより、経営拡大に意欲が増し農地の集積に積極的に取り組むことができたこと。
- (3) 6 次化に積極的に取り組んだこと。

○その他の波及効果

余剰労働力を活用して、育苗ハウスを利用してトマトのタル栽培に取り組むことができた。

5 今後の経営改善の方向

- (1) 農地の排水対策を行うことで大豆の増産を目指す。
- (2) 浮き楽栽培によるリーフレタスの栽培を行う。

- (3) 除草ロボットの導入により除草作業の軽減に取り組む。
- (4) 米粉パンを中心とする6次化の推進によりさらなる雇用の拡大を図る。



○生産したブランド米



○パン工房